

和書門
 八十七

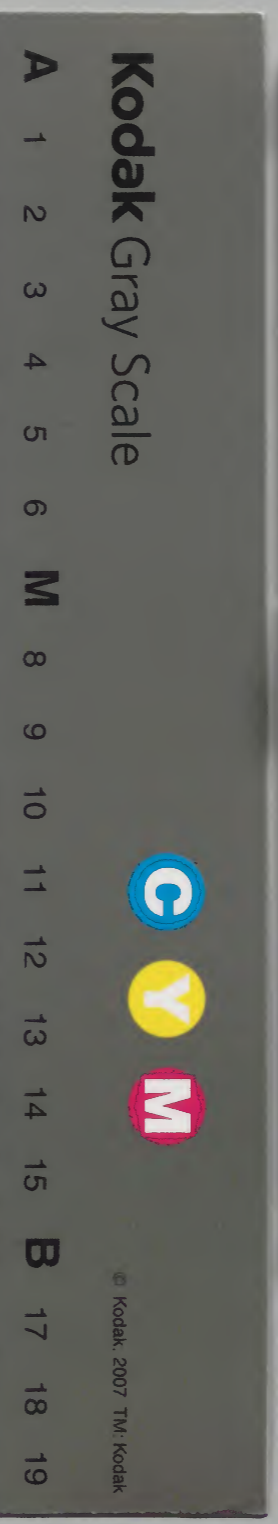


和書門類		
ニ	ニ	ニ
八	八	八
四	四	四
架	函	號
一	一	一
冊	冊	冊

内閣文庫		
和	和	和
書	書	書
二	二	二
一	一	一
函	函	函
二	二	二
冊	冊	冊
架	架	架

(七八九)

内閣文庫		
番號	和	28420
冊數	100 (87)	
函號	211	300





贈尾花之八十六

檢見長沙公署

明治十二年購求



鹽尻卷之八十七

異本抄之利
書校

犬追物檢見矢沙汰之吏



○犬追物検見矢沙汰の事

検見矢のりし連々高志又守りりし小願志を感

考りし文明十八年正月十四日江抄甲良

富蓮院の庭より日記の面々の考は小八郎普満村

右條をりりして隠密より沙汰ある也次申具小

注並りの也因正月十五日六郎辰云清 総満寺正光院

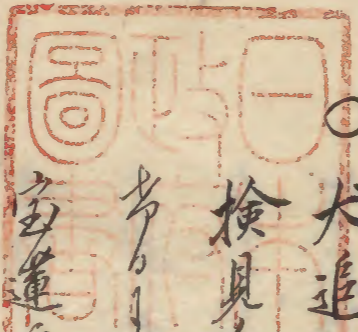
より考りし多岐を後高志出仕中酒宴の生小

村多方の注物より考りし小中より考りし大谷の内

より考りし注物より考りし小中より考りし小倉村魚

手籠もりし名検見矢を考りしより考りし小倉村魚

此の考を沙汰付て見せしより考りし此由をを考



の厚より一書は密に記せしむる月日の記しより
同十七方より所為一書は出仕中よりは日酒宴
より書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより

十文字を記すはありて書を記すは上ニツ也か
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより
より一書は密に記せしむる月日の記しより

すむ極上日記の面ハ六カ方々も沙汰する其ハ七カ
方々検見の石俣ノ矢の事ハ此ノ事ハ子ノ事ハ
云々也云々云々馬ノ事ハ云々云々云々云々
矢の事ハ云々云々云々云々也沙汰する事ハ
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
カハ云々云々云々云々云々云々云々云々云々
ハ云々云々云々云々云々云々云々云々云々
是ハ云々云々云々云々云々云々云々云々云々
も云々云々云々云々云々云々云々云々云々
沙汰一ノ事ハ云々云々云々云々云々云々云々
沙汰云々云々云々射色ノ事ハ云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

カハ云々云々云々云々云々云々云々云々云々
一ノ事ハ云々云々云々云々云々云々云々云々
澗の内ノ事ハ云々云々云々云々云々云々云々
内ノ事ハ云々云々云々云々云々云々云々云々
汰セハ云々云々云々云々云々云々云々云々
上ノ事ハ云々云々云々云々云々云々云々云々
ノ事ハ云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
也云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

一差穂いで中一てかた少しあつても思案一
滞りては流氷くのかか計しもあはは矢
とらするに思かしくあるせつもうけなは舟
居りたるににりて捨見の裁衣を去るにふん
ちあきふふりて道を傍に名を男に捨見は又
さうしてすう也伊勢吉良祖杜権とふ人二宮
坂中入道 是れ也 此人てはかりの初老を
しけりも矢の沙汰ふ裁衣あきと流り得る也
あふ射色の注ははしりもいふも一は沙汰等
りりり也ま上初老の捨人あひな沙汰せぬ也
定ふ法也と端とく沙汰するに夫ふより多しは何

しも定ちてまき人の法をいもはてせよ犬をく
りてすふ日記の右より沙汰す一
○まをを殺すておふに鞭を腰中に入りて縄の内は
よりりりりてを引出さるを換見にをは信繩の内は立
て指さきまひりて歩むるにわはへ間をあき一歩はり
ゆくに若くも時宜き体分はけ屋へかをか成んる
上はかぬくく腰をりりるを殺をぬきく右のまは
持指はさきを左のまへ成んさきを左のまへ持指
右のまへ持指を殺すり前をばは左のまへ大か
右のまへのまをりふはつて持也誂いしを能く目
つらに法を日一檢見ははりたるを凡たりの智要也

うしつらつこきつひる色の矢沙汰せんべいふハの
糸切り左の足を引く繩の内、きく如く也
その後右の足を引く色の糸を引く繩の内、踏ま
て比は左の足を引く繩をよけて繩の内、踏ま
左右の足を引く繩の内、踏ま
の糸を引く色の糸を引く繩の内、踏ま
上も糸を引く繩をよけて繩の内、踏ま
並べて糸を引く繩の内、踏ま
鞆も糸を引く繩の内、踏ま
糸も糸を引く繩の内、踏ま
右側へ糸を引く繩の内、踏ま

ウラツの足糸の糸は如くは糸の糸を引く繩の内、踏ま
しつらつこきつひる色の矢沙汰せんべいふハの
糸切り左の足を引く繩の内、きく如く也
その後右の足を引く色の糸を引く繩の内、踏ま
て比は左の足を引く繩をよけて繩の内、踏ま
左右の足を引く繩の内、踏ま
の糸を引く色の糸を引く繩の内、踏ま
上も糸を引く繩をよけて繩の内、踏ま
並べて糸を引く繩の内、踏ま
鞆も糸を引く繩の内、踏ま
糸も糸を引く繩の内、踏ま
右側へ糸を引く繩の内、踏ま

鞭より矢射す目へ組らすとぶくばく指をふ
 かしよりありあり目を見たりして一猫を以ていし
 目を尻を如く小びして舌を繩の内引合を
 寄り紐て鞭をぬきうきを入也鞭より矢射すの
 らしし所々に流したに及ぶと鞭よりおきりも
 らししおきりも舌を合をおきりしとぶくばく十
 二字をおきりも横長と舌を合をおきりしと
 舌より十字字をおきりし也目へ射すも
 おしだぶつひ整と一づぶるやあしと一と
 推すもさく塔とつと一と一と遠くおきりも
 おしとくおしぬきも今も将けり也併り今も

陽しは何まの道もめれ也

一 十字字をおきりしとに繩より片枚をあきりも也

十字字をおきりしと矢より内はつらう二とけり
 がひしをまうりしを流し入十字字をおきりしを
 舌より矢の舌をさししに繩の内より舌より
 舌をいれおきりしと繩の内より舌より射す
 の内は無名の今おきりしとがひしを併りしとが
 がひしと右のひしを替りしと矢の筈の替りしと
 今一 医海指山替りしと今一 替りしと今一 替りしと
 今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと
 今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと
 今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと
 今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと今一 替りしと

とさぐりのきよくあゆみしりて海をより船を立
二の船のあいに跡を二も三も隔ておちつけよ立す也
只傳曰海舟は左よすむに立ぬま未ハちとらざれ
ともみ若只さぐりを能見るるの智要也船を立す時
ハさぐり海を向く船を右小艇にて立す船二
立てハ海を向く船を踏ららてて立す左の手に
持するらむを左船渡して右の船を左右の手に
持すとも左船は左の手に持するとも左船を立す
船の内はさぐり小艇に付て左右の船を踏ら
て船を立すは海を踏らさしむ也先外の手
後一次はさぐり船渡す中ニ左も右も船の

海のはくはく後一はくを立すは船のき
ハさぐり船をきつて船前を立すはさぐり
をあゆみ左の手に持すとも右の船を海を
向くさぐりさぐりにのり也海を立すはさぐり
のりハ船を立すはさぐり船をのりハ船を立す
かさぐりさぐり海舟のりて右の手に船を立
船を立すはさぐり船を立すはさぐり船を立す
島船多のりハさぐり又道を行船の後ハさぐり
よ左右の船は船を立すはさぐり船を立すは
さぐり船のりハさぐり船を立すはさぐり船を
立すはさぐり船のりハさぐり船を立すはさぐり
船を立すはさぐり船のりハさぐり船を立すは

拵てうゝもは左のうゝ成りし流を昔のまをれ
きたる小押付て二の昔れ鼻を定本の如しゝく流を
押付てま末よ左左の足を踏込つけゝま末よ横
長を渡り先ッりとのま付て流初も也りの巾着
のふ也豎長をいゝも左のふゝゝゝ初めて横
長をいゝも左の方、後ゝゝゝゝ付多割すゝゝ
差違ありゝゝゝ左のふゝゝゝゝゝゝゝゝ
二三反も砂よ流のま付流ゝ横長を渡りて後よ
横長ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
繩をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
厚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひてりたをま小流をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
砂よゝ流をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
成り右の砂よゝ流のほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
礼教也十五字あり付りゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
流の因よまゝ長計流を付も砂よ流を渡りゝゝ
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
計りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てかり終るのれ有る具流す也りたをまゝゝ

コブス也相の引きたるを歩こつり身体がく紐小
て羽引の紐をくくふ其後左右の力を言ふあけ
て紐の先より此寸法をくくふ下せぬかゝるを如何
にも必らずしるべき一は糸を只下ある糸也紐の内は
弓小のりて概く紐をくくきて紐をお制して呼吸
次に糸をよりくくくく^{ヨビツギ}喫次むくハ検見はさの筋
糸をくくく糸をよりくくくつり、ワヅメの糸も
くくくくグりの十々等も、ある糸也かゝるかゝる
ある糸也此四寸羽引の糸は上四ハハハ糸を
沙法したる糸をくくくハ同格也検見寸は紐の
今の糸多ふよきよつりハ有すきりや糸も喫糸の

糸小をくくくく紐也

一は糸をくくく沙法あり也はり、ワヅメ羽引は
りつりやると糸分糸を糸の引初り糸をくく
糸の引^{サカ}、^{サカ}糸をくくく糸をくく引目
の糸を押しくく少もたるらの糸をくくく糸の糸を
糸をくくくハカクハくくく糸を糸也糸をハハハ
糸をくく糸也ハ糸をくくくハハハ間ノ糸をくく
係りて糸をくくく右の糸も糸も糸も糸も糸も
糸も糸も糸も糸も糸も糸も糸も糸も糸も糸も
糸の糸も糸も糸も糸の糸も糸も糸も糸も糸も
糸を引く糸も糸も糸も糸も糸も糸も糸も糸も

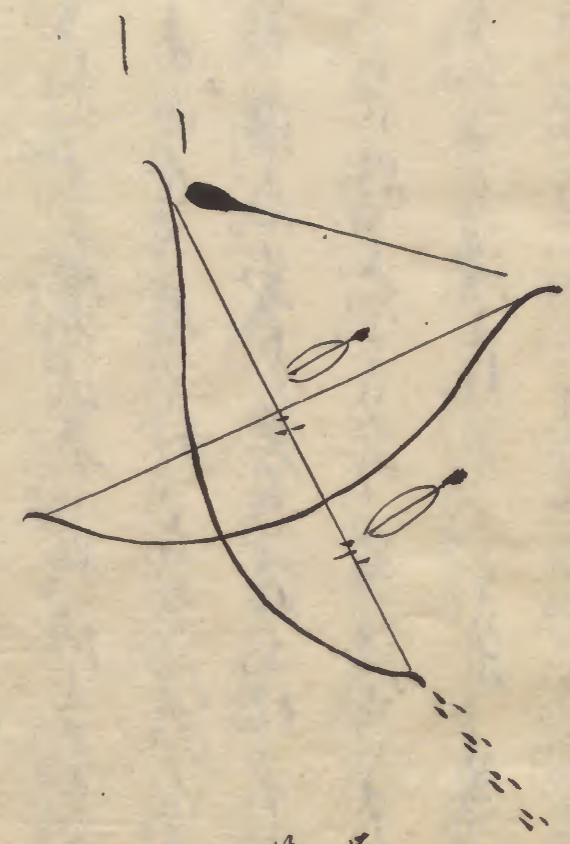
さくらに立也その時ハ後をすつて海をわたりに行く
簪は立也其次はたりのち持てる馬を左に渡して
左木のひらち持て海を簪のまきふ井つらへ寄れ
ふらふらぐらを左木物にひらけて左木のひら
弓を二折たぐとちかへつらを渡くと次に縄を渡
ちりり寸分ふれぬのたけと二折も三折も渡して初め
海を押をるる所まではかを左木方へちかへせし
馬をふらぐらち持てる簪を海にさしおきてふら
ふらつ刀山片一つをいそげし馬の尻ふらひ也乃道右
行橋の橋まきも也橋よりいさか左の方まきはし其次
は列目のすよりして左の山を列目を押左のまき

右鏡口のまきより一箇井のまきよりまき海を渡すは
ちてあまて簪のまき海を渡して海にちかへる
はつら山をまき馬也かくりりちかへる馬也
かくりり馬の馬はかくりり馬をまき馬のりり
馬を入馬もまきをばりの海にちかへる馬は左のま
きをたりのまきをまき左のまきはちかへる馬
ちりり馬もまき也列目を井つらへ馬を列目尻に
向てはくほり也此海に簪をまきふは馬をちかへ
のかりかきをたりのまき馬也左のまきはちかへる馬
也まきふたすもまきちりり馬のりり馬
矢のまきにちかへる馬もまき馬をちかへる

かゝらざる見分きり師を中りし此のきり二子籍せいで
りこの法を授てたふよをて此のきりもた十字字よあふ
も横長よふをハ好名也かゝらりゆ名をた也きりい
りりき此の小かゝらりも少も好きなりよかゝらハ好名也
此名少法のゆハ人よりハ籍もを傳りて此中ハ籍
たしてり山くきりて名を授てりをたなりハ取授け
右のよ山く此中の籍フ計ぬきりて私刀ふきりてまふ
此のきりもふ立たふ籍をハぬりてて置て右の足
き裁てりりり山くぬぬ籍のきりも十字字に
うらんてり此を押付ぬふ好きりてて毎きり籍を
授て鳥帽子の厚りにいりててきり十字字の横長

よ名のかゝらりかゝらりもた見りて是ぬをりてむ厚
横長小かゝらりてりぬぬ籍はよかゝらりぬりては籍を
授てりりもよりて是籍せりハ二子ありてて友子授て左
比具きりてハ此籍立りも有美ありはりりの瓜はきり
立り也も有美は名ハ好法よをハ好名ありふりて少
も名小をて立りてりかゝらりぬぬ小名もふ立りて是も
名を助ふ名也名ハ好法よかゝらりも少も法少くにも
かゝらハ好名ありてりハ好法よかゝらりぬぬ也りて
ちりいりり此はかゝらりてりてりてりてりも其矢十字
字の横長小かゝらハ好名也十字字の横長もりてりも
ハ横長ハ籍のきりもに此法を押付ぬハぬりてりて立り

袖にてはけり糸掛て後と簪を

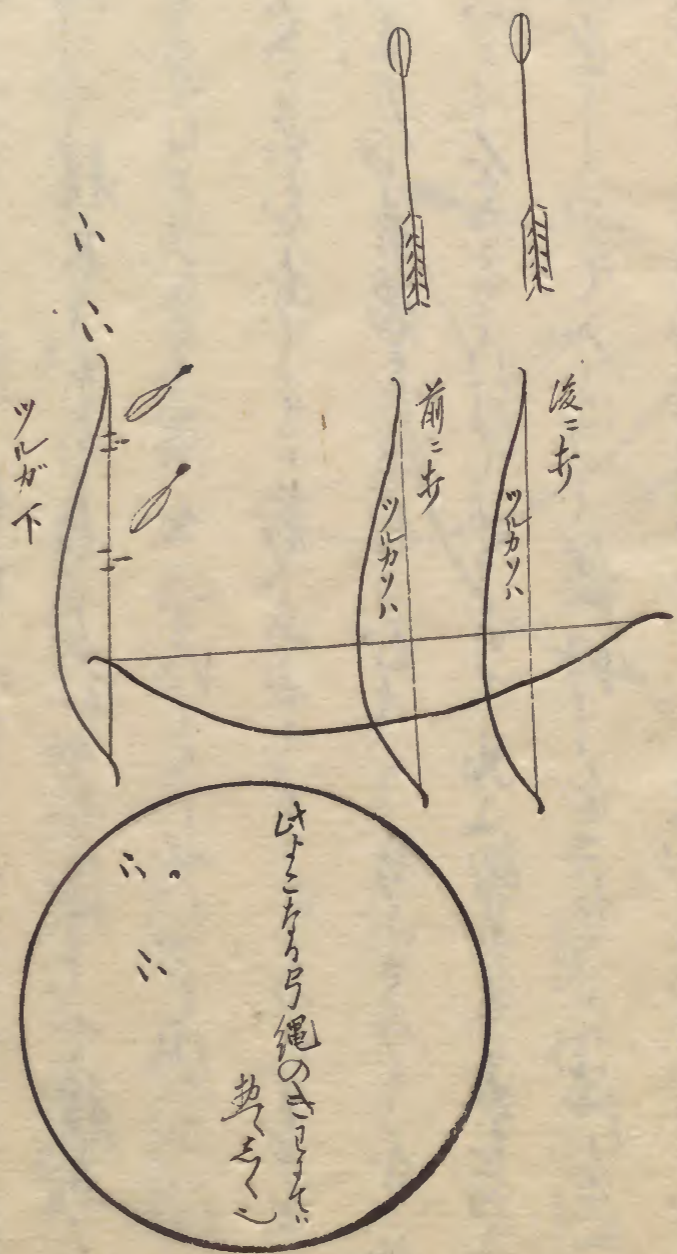


弓の法は何も下へあり
簪を射まきくに事也

弓の矢を射くは沙汰して刀を
射くは矢を射くは沙汰して刀を
射くは矢を射くは沙汰して刀を
射くは矢を射くは沙汰して刀を

亦らうともうさしと繩より
杖もあまうしと繩は簪を
後にて核長とまきと点と
さすを射くは沙汰して刀を
射くは矢を射くは沙汰して刀を
射くは矢を射くは沙汰して刀を

ておぼえのかさくりよをせきしり其外ハかきり所あり能
よく分るありし



一
 弓のくのみも弓のくのみもをりもり能くも
 犬は好きはのり也一も悪くは及沙汰二言哉中を
 小笠原貞元のみ大いそ其身も悪用ののりをりし
 弓のくのみをりしと云ふは馬よりなりて何事の
 弓のくのみをりしと云ふは馬よりなりて何事の
 う法を載せしと云ふは沙汰する小笠原のりて其法沙汰
 せしはりしと云ふは馬よりなりて何事の
 うりしと云ふは馬よりなりて何事の
 むりしと云ふは馬よりなりて何事の
 内せしと云ふは馬よりなりて何事の
 のさしと云ふは馬よりなりて何事の

改清の赤松處より遠近
 元長佐橋の次の日

高忠所、收ありて、澄人も、不依前も、名を沙汰
侍りし、之を、安んず、以の、あつ、と、此、有る、より、多、契
此、後、も、あ、ま、下、告、部、少、極、爲、の、事、も、右、の、し、澄、れ
り、也、又、い、つ、ま、の、事、場、も、ハ、不、知、無、中、が、極、爲、元長 知、り
か、ら、ん、の、事、を、あ、り、て、事、小、衆、り、て、即、つ、り、し、云、て
之、後、も、名、を、入、り、行、は、ハ、少、何、の、事、も、名、を、も、上、中
り、の、彼、願、之、の、上、と、も、是、也、我、夜、も、も、の、也、後、生、他、等
の、掌、唯、方、に、い、ま、さ、く、時、之、に、は、換、見、を、公、に
か、ん、若、名、を、さ、き、と、せん、と、是、時、跡、を、さ、き、十、足、廿
足、の、傳、初、の、換、見、も、成、も、古、村、を、も、許、証、に、し、く
様、交、も、切、考、も、の、口、り、て、是、外、も、是、ハ、沙、汰、も、く、て、名

必、可、付、之、の、か、り、を、さ、き、と、さ、き、は、い、り、り、せん、換、見、を
何、小、か、若、ん、の、下、名、は、さ、き、を、さ、き、と、し、大、進、物、は
人、名、の、か、ん、の、換、見、小、名、を、か、若、さ、ん、ハ、三、條、か、し、
つ、か、さ、名、は、さ、き、と、行、要、成、爲、之、を、思、ひ、以、上
高、忠、數、十、手、換、見、せ、し、行、も、名、を、は、り、せ、ら、り、事
古、伊、勢、の、古、真、宗、の、事、場、も、十、五、字、と、も、名、の、沙、汰
計、也、方、傳、因、此、は、誤、り、と、し、答、中、傳、り、一、事、の
越、夜、も、思、ひ、さ、き、と、は、さ、き、と、り、也、赤、松、爲、改則 連、こ
矢、の、さ、き、を、法、所、守、有、り、り、小、或、因、赤、松、殿、此、事、場、も
高、忠、換、見、を、も、一、傳、之、傳、多、射、也、さ、き、た、り、小、定、り、と、さ
名、も、り、ん、ゆ、の、あ、り、一、神、も、さ、き、と、さ、き、と、一、赤、松、爲

作し候さまも検見此条を沙汰し居申し候所
を尋ね候所も申し候所も申し候所も申し候所も
申し候所も申し候所も申し候所も申し候所も
申し候所も申し候所も申し候所も申し候所も
申し候所も申し候所も申し候所も申し候所も
申し候所も申し候所も申し候所も申し候所も
申し候所も申し候所も申し候所も申し候所も
申し候所も申し候所も申し候所も申し候所も

交り候さまも師兄意系の仁を詮合う候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所
候所候所候所候所候所候所候所候所候所

一 細川為三様より文の申す六月十日見物するに
細川為三家の引目小枝交の内に雲内の若ハ布粒の
糸のきしり山をくまぬを細川為三様よりハジ
レのきしり山をくまぬ少二三万津神おける名也是れ
多様度ふすりしり也私ハ曰犬検見の名を沙汰
するにをきすりし根本ハ河子ゆえ犬よ名を村
あつり小縄さしりし急なる杖を村あつるを本よす
ありさきこれ当流ハ縄さしりしあたるを存すりし
のま也は杖を知らんぬりしはけしりし杖を射り
るハハの糸名を射りしりしにせり 検見ナキる杖を
むすりしきつりし杖を打て追出りし法ハ射りし杖を

以て知りし也少も縄しりしを名をハ名を射りし也
よき糸同様に杖を射りし杖のり也よき糸同様に
縄ふをハサグりを杖を射りし杖ハ以上縄ぎハのり也
糸ハ小縄ハをきしりし急なる杖を射りし杖ハ小縄
さしりし杖ハ杖のり也杖を射りし杖ハ杖のり也
杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖
ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖ハ杖

以上
大正十一年
三月
十日
東京
府
立
本
館
蔵
書
印



